

# 高尾山山行報告

【山行日】2022年 4月 17(日) 曇り時々晴れ

【集 合】岩舟支所 P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 2,300円

【メンバー】CL:鈴木、SL:大西、青柳、安西、  
植竹、嶋田、島田、廣瀬

【コースタイム】岩舟支所 P6:00＝高尾山口駅  
P6:55/7:15～稲荷山 8:00～高尾山 9:05/9:20～

一丁平 10:10～城山 10:20/10:45～一丁平  
11:05/11:40～高尾山 12:00/12:10～薬王院 12:30～

高尾山口駅 P13:40/13:50＝羽生 SA14:45/15:05＝岩舟支所 P15:30

山行アンケートで高尾山に登りたいというリクエストがあり、桜の季節に合わせて計画した。岩舟支所を6時に出発し東北道から圏央道を進み、高尾ICで降りて高尾山口駅の駐車場に着く。



駅前の大駐車場はすでに満車になっており、奥の神社の駐車場に止めるが料金を1500円徴収される。この時季は利用者が多く、7時前に着いても駅前の大駐車場に止められない。出発の準備を整えたら駅前広場に移動し、トイレを済ませてストレッチを行い出発する。駅前の道を右に進み川沿いに歩いて清滝駅前に出て、清滝駅の左にある稲荷山コース登山口から山道に入る。このコースはいくつかある高尾山登山コースの中で、最も登山らしく歩けるコースで人気が高い。急な階段状の道を登っ

て行き、コースの名前の由来となった旭稲荷を過ぎると尾根筋を歩くようになる。次々に後から登っ

てくる登山者に追い抜かれるが、気にせず ゆっくりしたペースで登って行く。尾根道をしばらく登って行くと、中間地点である稲荷山に建つ東屋に着く。ここからの展望は素晴らしく、ここまでの登りの疲れを忘れさせてくれる。

小休止してトマトをいただき、水分を補給したら山頂に向かう。ここからも広い尾根道が続き、木の根がむき出しになった道や、木の階段などが続き徐々に高度を上げて行く。最後は広い道路に出て、石段を登ると高尾山山頂の展望台に出る。展望台からは富士山や丹沢の山々が望めるが、あいにくの曇り空で見ることが出来なかった。茶店奥のトイレに寄ってから、山頂

標識の前で記念写真を撮り城山に向かう。



もう一度展望台に寄り、富士山を眺めるがやはり雲の中に隠れてみる事が出来ない。展望台から



右の石段を下って行き、モミジ台に出ると展望が開けヤマザクラの花が残っていた。その先にトウゴクミツバツツジが咲いていて、快適な尾根歩きが続いて行く。整備された登山道は歩き易く、花を楽しみながら爽快に歩ける。鞍部から一丁平への登りが始まり、道が2つに分かれるが我々は真っ直ぐ尾根道を進む。ここから一丁平まではヤマザクラが道の両側に咲き、ピークは過ぎていたがまだまだ花を楽しめる。花を楽しみながら一步一步登ると平坦な場所に出て、ト

イレやベンチがある一丁平に着く。トイレを済ませ水分を補給したら城山へ向かい、階段状の登山道を登って行く。前方に見えていた電波塔が近くなり、一つ目の電波塔を過ぎ急坂を登るとお花畑があり山頂に出る。山頂は広く茶店やベンチ、テーブルが沢山並び、大勢の登山者が休憩していた。我々もベンチとテーブルを2つ確保し、大休止して果物や菓子をいただく。皆さんお花を見たり、スマホにお花を収めたりと思い思いに過ごす。

山頂標識前で記念写真を撮り、南側の芝生広場で彩やかなハナモモや桜を見てから下山する。下山は往路を戻り、八丁平まで下ってランチタイムとする。ベンチとテーブルを2つ確保し、お湯を沸かして各自持参したカップ麺やスープを作る。持ち寄ったお惣菜が皿に盛られて配られ、超豪華なランチを美味しくいただいた。ランチが済んだら高尾山



へ向かうが、大勢登山者が登って来るので皆驚いていた。高尾山頂まで戻ると登山者で溢れてい



て、「世界一登山者が多い山」を実感した。山頂からはメイン登山道の1号路を下り、茶店の間を下って薬王院へ向かう。さすがメイン登山道で大勢の観光客と登山者で、行き交うのが大変な状況である。薬王院まで下るとさらに人混みがひどくなり、立派な本堂の前で手を合わせ早々に石段を下る。山門を出ると人混みは少なくなり、杉木立の参道をゆっくり下って行く。樹齢450年に及ぶ「たこ杉」など、巨樹の参道はいい感じで心が落ち着く。道なりに下ると清滝駅前に出て、左に

川沿いの道を戻ると高尾山口駅に出る。駅のトイレに寄ってから駐車場に戻り、靴を履き替えたらずらに帰路につく。途中、狭山PAと羽生PAに寄って買い物し、予定より1時間早く岩舟支所に帰着出来た。